

# モニタリング結果の概要

## プロジェクト名

### 「紋別市有林間伐促進型森づくり事業」

- ・モニタリング対象期間

2008年4月1日～2010年3月31日

- ・純吸収量の算定

地上部バイオマス中の年間CO<sub>2</sub>吸収量  $\Delta C_{total} = \Sigma \Delta CFM - \Sigma \Delta C_{Base}$

2008年度	2009年度
990 t CO <sub>2</sub>	1,013 t CO <sub>2</sub>

- ・吸収量（地上部バイオマス）の算定

<p>地上部バイオマス中の年間CO<sub>2</sub>吸収量 <math>\Delta C_{AG}</math></p> $= \Sigma \Delta C_{AG, i} = \Sigma (\text{Area}_{\text{Forest}, i} \times \Delta \text{Trunk}_{sc, i} \times \text{BEF}_i \times \text{WD}_i \times \text{CF} \times 4.4 / 1.2)$ <p><math>\Delta C_{AG, i}</math> 森林経営活動（間伐）に基づく、階層<i>i</i>における地上部バイオマス中の年間CO<sub>2</sub>吸収量（t-CO<sub>2</sub>/年）</p> <p><math>\text{Area}_{\text{Forest}, i}</math> 階層<i>i</i>において森林経営活動（間伐）が実施された森林面積（ha）</p> <p><math>\Delta \text{Trunk}_{sc, i}</math> 収穫予想表等に基づく、階層<i>i</i>における単位当たりの幹材積の年間生長量（m<sup>3</sup>/ha/年）</p> <p><math>\text{BEF}_i</math> 階層<i>i</i>における幹材積生長量に枝葉の生長量を加算補正するための係数</p> <p><math>\text{WD}_i</math> 階層<i>i</i>における成長量（材積）をバイオマス（乾燥重量）に換算するための係数（t/m<sup>3</sup>）</p> <p><math>\text{CF}</math> 樹木の乾燥重量から炭素量に換算するための炭素比率（0.5）</p> <p><math>i</math> 1, 2, 3…プロジェクト実施対象地における階層</p> <p>プロジェクト対象値においては、林小班ごとに林齢及び樹種が異なるため、階層の単位は林小班とする。</p> <p>※北海道における成長量は疎密度による補正前の状態を示すが、本案件では疎密度による補正を行ったものを成長量として扱う。</p>
---

- ・吸収量（地下部バイオマス）の算定

<p>地下部バイオマス中の年間CO<sub>2</sub>吸収量 <math>\Delta C_{BG}</math></p> $= \Sigma \Delta C_{BG, i} = \Sigma (\Delta C_{AG, i} \times \text{Rratio}, i)$ <p><math>\Delta C_{BG, i}</math> 森林経営活動（間伐）に基づく、階層<i>i</i>における地下部バイオマス中の年間CO<sub>2</sub>吸収量（t-CO<sub>2</sub>/年）</p> <p><math>\text{Rratio}, i</math> 階層<i>i</i>における地上部バイオマス中の年間CO<sub>2</sub>吸収量に、地下部（根）を加算補正するための係数</p> <p><math>i</math> 1, 2, 3…プロジェクト実施対象地における階層（地形、植栽樹種等の森林成長に関する層：地位級）</p>
--

ベースライン吸収量の算定 ※方法論を参照し、以下にプロジェクト排出量の算定式及び値を記入する。

R001 の場合、グロスーネット計上方式の場合、人為的な活動（間伐）が実施されていない土地は吸収量算定の対象とならないため、ベースライン吸収量はゼロとなる。

プロジェクト排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にプロジェクト排出量の算定式及び値を記入する。

該当なし